



鈴木雅大：海藻展示-山田町立鯨と海の科学館の場合-

山田町立鯨と海の科学館は、リアス式海岸で有名な三陸沿岸に面している。地元では鯨館と呼ばれ親しまれている。エントランスを抜けると、全長 17.6 m にもなる世界最大級のマッコウクジラの実物大模型が迎え入れてくれる。鯨館の展示の中心は「鯨」と「海」である。山田町は日東捕鯨株式会社の事業所があったことから、鯨との縁が深く、鯨館には商業捕鯨末期の捕鯨航海で捕獲されたマッコウクジラやミンククジラの骨格標本などが展示され、クジラの生態や捕鯨の歴史などを学ぶ事が出来る。もう一つのメインである「海」の展示の一環として海藻の展示に力を入れて来た。これまで、吉崎誠博士（東邦大学名誉教授）の監修のもと、平成 11（1999）年に「日本一のワカメ展」、平成 12（2000）年に「山田町の食べられる海藻展」と、海藻に関する企画展を開催し、好評を博してきた。また、毎年、地元の小学生などを対象に「体験教室」として海藻押し葉作りなどのイベントを行っている。乾燥した海藻を切り貼りして作る「海藻しおり作り体験」（一枚 100 円）も来館者に人気である。最近では、2010 年 7 月 25、26 日に野田三千代先生（海藻おしば協会会長）、吉崎誠博士、著者を講師とした海藻アート指導者講習会が催された。この講習会は、山田町立鯨と海の科学館・船越公民館・豊間根公民館・大沢ふるさとセンター共催によって企画され、海に関する学術的及び芸術的な視野から新しい企画事業や体験教室の充実を図るため、今後の事業及び教室の指導者となりうる講師の養成を目的として行われたもので、鯨館の活動の更なる発展が期待される。



図2 マコンプ（ドテメ）の1年物と2年物のラミネート標本。長く生長した1年目のマコンプと、越冬して先端が詰まり、生殖器官を形成した2年物のマコンプを並べて展示している。大人の背丈を楽に越える迫力ある展示である。

鯨館は山田町の花藻の押し葉標本およそ 500 点を所蔵している。種類ごとにジナスカバーに挟み、ハーバリウムとして整理された状態で標本庫に収められている。歴代の職員の方々の努力の賜物である。押し葉標本の一部を館内に展示するとともに（図1）、高さ約 33 m に達するワカメ、数 m に達するマコンプ、スジメのラミネート標本が展示されている（図2）。



図1 鯨館の海藻展示。山田町の海藻がパネル展示されている。大型の海藻標本は吉崎誠博士が作成されたもので、A3サイズの標本は歴代の館長、職員の方々が作成されたものである。

これらの大型海藻には圧倒されるものがあり、三陸の海の豊かさを語る上で欠かせないものとなっている。ワカメについては前述の企画展の際に蒐集した日本各地のサンプルが展示されており、全国のワカメの形態の違いを実感出来るようになってきている。大型の海藻標本がこれほど多く展示、保存されている科学館、博物館は国内では類を見ず、鯨と並んで鯨館の展示のメインの一つとなっている。三陸の海藻に触れ合える科学館として、近くに行かれた会員諸氏にはぜひ立ち寄って頂きたい。

謝辞

本稿を執筆するに当たり、芳賀昭義氏（鯨と海の科学館館長）と舟田春樹氏（山田町生涯学習課 課長）には大変お世話になりました。ここに謝意を表します。

（都留文科大学）

【山田町立鯨と海の科学館】

所在地：〒028-1371 岩手県下閉伊郡山田町船越 7-50-1。Tel：0193-84-3985。Fax：0193-84-3986。HP：<http://www.town.yamada.iwate.jp/kujirakan/>。交通：JR 山田線岩手船越駅より徒歩 10 分。開館時間：午前 9 時～午後 5 時（入館は 16 時半まで）。休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）※ ゴールデンウィーク及び夏休み期間（7 月 25 日～8 月 19 日）は休まず開館。冬季臨時休館（12 月 1 日～3 月 31 日）。入館料：一般 600 円、高校生・大学生：400 円、小学生・中学生：300 円（20 名以上の団体入館者は一般 400 円、高校生・大学生：200 円、小学生・中学生：150 円）。